

Exciting108 の進捗状況

新中期計画「Exciting108」

当社では、「Exciting Companyの実現と企業価値の拡大」を目標に掲げ、2004年3月期を最終年度とする新中期計画「Exciting108」を2000年4月より展開しております。

この新中期計画「Exciting108」では、数値目標を設定しておりますが、当期の実績は以下のようになっております。

収益性/資本効率

当期の収益性は、電子素材部品部門において、携帯電話やIT分野を中心に需要が大幅に減少したことで悪化しました。また、今後の収益回復のために構造改革を実行したことで、一時的なリストラクチャリング費用が発生したことも影響しております。しかしながら、下期に入り、記録デバイス製品において、HDD用ヘッドにて40ギガバイト/ディスク製品が好調に推移し、それに伴い収益性も回復してきております。また、今回実施致しました構造改革は、今後確実に収益回復に寄与してくるであろうと見ております。

残念ながら、当期の下記指標は、前年をも下回ってしまいましたが、当社の目標は、収益性の拡大ならびに資本の効率化であり、今後は、事業の「選択と集中」も進めながら、収益性/資本効率の向上を目指してまいります。

	2001年3月期 実績	2002年3月期 実績	2004年3月期 目標
営業利益率	8.2%	-7.6%	13.0%
ROE	7.3%	-4.2%	12.0%
TVA	-1.4%	-11.8%	3.0%
総資産回転率	0.9回転	0.7回転	1回転以上

注記1. TVAとは、資本コストという株主が期待するリターンをハードルと考え、これに対して投下資本利益率がどうであったかを判断する指標です。また、投下資本利益率の算出は、利払前税後利益をベースに行っております。なお、標記TVAの前提となる資本コストは、今回8%で見えております。

注記2. 営業利益率は、売上高と、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費(2001年3月期における特定の無形固定資産売却を除く)、及びリストラクチャリング費用を差し引いて求められる営業利益により算出されます。

重点分野の売上高構成と伸び率

通信、記録両分野とも需要の大幅な減少を受け、対前期比でマイナスの伸びとなってしまいました。特に通信分野は、携帯電話向け電子部品の需要減少の影響を大きく受けました。

一方、記録分野においては、下期からHDD用ヘッドのマーケットシェアが回復してきたことにより、売上高の減少を一部抑えることができました。

	2001年3月期 実績		2002年3月期 実績		2004年3月期 目標	
	構成比	前期比 伸び率	構成比	前期比 伸び率	構成比	年平均 伸び率
通信分野	14%	30%	9%	-50%	20%	25%
記録分野	41%	-7%	43%	-11%	45%	10%

設備投資額(全体)

当期は、需要の低迷を受け、合理化設備投資を中心とし、全体の設備投資額を抑えました。

(単位:百万円)

	2001年3月期 実績		2002年3月期 実績		2004年3月期 目標
	当期	累計	当期	累計	累計
設備投資額	99,452	99,452	58,777	158,229	350,000